

発行 習志野市国際交流協会
千葉県習志野市津田沼 5-12-12
サンロード津田沼 6F 〒275-0016
Tel&Fax 047-452-2650
http://www.nia08.com/
(Email)niasquare@m.jcnnet.jp

——— 主な内容 CONTENTS ———

- 市民まつり 2015 きらっとサンバに参加しました。
- 日本語教室で七夕とスピーチ茶話会が開かれました。
- 習志野市 ALT のシアラ・デューターさんを紹介します。

詳しい記事、およびカラー版が NIA ホームページからご覧になれます

市民まつり 2015「きらっとサンバ」に参加しました サンバがつくる素敵な時間をもち続けて

竹内(太田)一江(NIA 会員)

市民まつり「習志野きらっと 2015」が7月19日(日)、市役所前グラウンドと市役所通りで行われました。

当日は朝から大変厳しい暑さで、昼間のまつり会場では皆さん汗だくでしたが、サンバパレードが始まる頃には涼しい風も吹き始めました。サンバ参加者集合時刻の4時半近くになると、国際交流協会事務局にはメンバーが集まり始めました。日本語学習者の方、ボランティアの方、NI-Youth の皆さん、いつも参加してくださいの有志の皆さんです。当日まで事前練習はできませんでしたが、パレードスタートまでのわずかな時間、6階大会議室前のスペースで、胸に向日葵の花を付け、帽子を被り手にポンポンを持って練習。初めてで大丈夫かしらと言っていた方も、もう心は一つ！さあ踊るだけ！いよいよ本番！と胸が高まってきました。

夕方6時半、外に出て決められたスタートポジションに着くと、沿道から声援を受けたり、参加者同士で記念撮影をしたり、他チームの皆さんに声を掛けて励ましあったり、気分は絶好調！そして習志野きらっとサンバの振り付けをしていただいた桜丘先生のカウントダウンの声とともにいざサンバスタート！

20名強のメンバーでしたが、元気いっぱい一つにな

って市役所前の坂を登り切り、踊り切った後はシャワーを浴びたかのような汗だくの顔で喜び合いました。ゴールの後には NIA 事務局に戻り、クーラーの効いた部屋で、スタッフが用意しておいた軽食や冷たい飲み物を食べながら、今日ここで出会えた喜びを語り合ったり、海外出身の方から国の話を聞いたりして、楽しい時間を過ごしました。

10年以上前、サンバに参加しようとして提案した私ですが、今でも皆さんとこんな素敵な時間をもち続けることができるのは大変幸せなことです。またお会いしましょう！



サンバチームの皆さん。2列目左から4人目が竹内さん

ユニセフ募金を届けました



募金を届けた NI-Youth の石野さん、小野さん、菅さん(右から)

NIA 事務局にあるユニセフの募金箱には世界各国の様々なお金が集まります。8月20日、NI-Youth の有志3人で品川のユニセフハウスへ募金を届けに行ってきた。

ました。集まった募金はコイン 5.4kg と日本円で 3,000 円でした。各国の通貨は種類が多いので、金額ではなく重さを量って届けています。

ユニセフハウスの職員の方々は、とても温かく出迎えてくれました。募金を渡した後、彼らと様々な話をし、建物内の展示を見ていると、世界の現状を実感して私たちも少しでも役に立ちたいと思いました。また募金以外でも様々な形で協力できることに関わっていきたくと思いました。

事務局には空になった募金箱が再び設置してあります。事務局に立ち寄った際にはぜひ募金にご協力をお願いします。(報告 小野翔 NI-Youth)

日本語教室で「七夕とスピーチ茶話会」が開かれました

下野かおる(日本語教室部会)

「七夕祭」と「スピーチ茶話会」とを統合したはじめての行事が各曜日の学習会で開かれ、水曜日教室は7月1日に行われました。参加者は学習者16名、日本語ボランティア21名の合計37名が参加しました。始まる前に、学習者によって色とりどりの飾りが結ばれた笹が教室に飾られました。

直前まで学習者もボランティアもスピーチの原稿に見入って緊張気味でした。会が始まり、「たなばたさま」の歌をみんなで歌い、ちょっとリラックスしたようでした。スピーチは、まずボランティアが学習者を紹介、そして学習者がスピーチと願い事を発表、という形で始まりました。

日本語を勉強して間もない学習者も立派に自己紹介をしていました。テーマもさまざまで、自己紹介のほかに好きな食べ物、日本での経験、日本の生活、大学でのプロジェクトについて、日本に来てびっくりしたこと、私の趣味についてなどです。内容も豊富で、自分の経験を楽しくおもしろく語り、また自分の思いを熱く語っていました。普段の学習では学習者同士があまり話す機会もないようで、「お友達になりたい」「お話がしたい」などの話も出ました。みんなのスピーチを聞いてより身近に感じられたのではないのでしょうか。

願い事は「日本語が上手になりますように」「家族が幸せになりますように」などが多かったようです。参加者全員で集合写真を撮り終了しました。記念に自分の願い事と飾りのついた笹を切って、大勢の学習者が持ち帰りました。和やかな雰囲気です。会を出来たことはとてもよかったと思います。



七夕とスピーチ茶話会水曜教室に参加のみなさん

日本語教室の親睦会が開かれ、ゆかたで盆踊りを楽しみました

佐藤洋子(日本語教室部会)

8月22日、京成津田沼駅前広場で行われた「津田沼盆踊り大会」に日本語学習者と日本語ボランティアが参加しました。これは日本語教室部会の親睦会で、参加者は学習者とその家族・友人27名、ボランティア30名、さらに着付けや踊りの指導に地域の方々も多数加わっていただきました。

夕刻、6階会議室に三々五々集合。学習者たちはボランティアが用意したゆかたを次々に着せてもらい、輪になって盆踊りの練習。軽く腹ごしらえや記念撮影の後、6時半、いよいよ会場へ向かいます。

会場には、盆踊りの曲が大きく流れ、すでに盛り上がっている輪の中へ、「こんばんは～」と、学習者もボランティアも元気に合流。色とりどりのゆかたを着込んだインド、フィリピン、ドイツなど、国際色豊かな一団の参加で周囲はパッと花が咲いたよう。

「すごく楽しかったです！ 皆さんと一緒にダンスをしたり、着物も着せてもらえましたし」と汗をぬぐうのはショハナ・パルビンさん(バングラデシュ)。

ゴウ・ジンさんは中国から2月に来日。かたわらのご主人が、「まだ、あまりしゃべれないので僕が。初めてゆかたを着て嬉しかった、と言っています(笑)」とやさしく代弁します。

ヘレン林田さん(ブラジル)は、「小さな子供から大人、年とった人まで、みんなと一緒に仲よく踊ったのが、すばらしいと思いました。本当の日本を知ることができた、という感じです！」と話します。

数少ない男性参加者で、ゆかた姿もいなせなマキシム・アンドリゲットさん(フランス)は、「ゆかたも盆踊りも初めて。踊るのは、最初は恥ずかしかったけれど、いざみんなで踊ったら楽しかったです」と笑います。

踊りを指導して下さった女性も、「あんな(会議室での)短い練習で少し心配でしたが、本番になったら、皆さん、スーッと自然に輪の中にとけこんで上手に踊っていて、驚きました。さすがです」と目を細めます。

ゆかたが素敵に似合っていた学習者たち。みんなで踊って、地域の人々ともふれあい、楽しいニッポンの一夜となりました。



出発前に参加者全員で記念撮影

NI-Youth の BBQ 交流会が 開かれました

小口 雄大 (NI-Youth)

7月11日(土)、県立幕張海浜公園バーベキューガーデンでNI-Youth主催のバーベキュー(以下BBQ)イベントが行われました。当日は恵まれた天候で、BBQ開始前から参加者は汗だくになっていました。暑さの中、21人のNI-Youth以外の参加者が集まりました。我々NI-Youthのスタッフ15人もその人数の多さに改めて驚かされました。

BBQ開始前から皆さんお互いに声を掛け合って、あつという間に打ち解けていました。NI-Youthのスタッフも参加者同士の仲介役として、そして参加者として積極的に交流を楽しんでいたようです。

BBQが始まってからも、席を自由に移動しながらたくさんの方が交流を楽しんでいました。皆さん夏の暑さに負けることなくもりもりと食べていました。途中食材がなくなるのではないかとスタッフも焦るほどで、BBQそのものも大成功という結果になりました。

しかし、それ以上にこの場を通じた交流は価値のあるものになったように思います。海外出身の参加者は10人。中国、韓国、フランス、アメリカ、オーストラリアなどです。様々な言語が飛び交う中、不思議とコミュニケーションに困ることはなく、言語や文化を超えた人と人との繋がりを感しました。このイベントでの一番大切な経験は、「言葉の垣根を越える」ということだったと思います。今回のイベントは国際的な交流を広げることを目的として開催しました。私自身も企画者としてこのようなイベントに参加することは初めてでした。我々NI-Youthとしても新しい経験が多々あり、大変内容の濃いイベントとなりました。このBBQを実施するにあたり、準備段階では新しい挑戦の連続でした。中でも参加者の募集に一番手間取り、参加者への連絡や出席の確認などは、BBQ当日まで頭を悩ませました。

今回のイベントを通して学んだことを活かし、これからも国や文化の違いを越えて、たくさんの人々と交流できる場を提供し続けられればと思います。

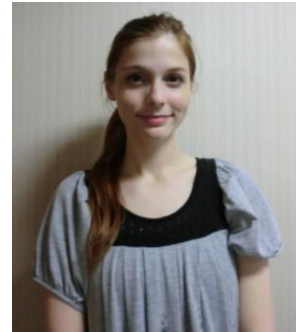


強い日差しも若さで跳ね返す参加者

「英語は世界への入口」を伝えて いきたい

習志野市ALT シアラ・デューターさん

この8月、姉妹都市タスカルーサから新しいALT(アシスタント・ラングイッチ・ティーチャー 外国語指導助手)が派遣されてきました。シアラ・デューターさん。アラバマ大学でファッション・ビジネスを学んだ、笑顔の素敵なスラリとし



シアラ・デューターさん

た女性です。9月から習志野第五中学校で英語を教えています。

NIAのチャットに参加されているデューターさんに話をうかがいました。

●習志野の第一印象は？

人々がとても親切でやさしい、と感じました。東京にも出かけましたが、人々はもう少し距離を持って接している感じがしました。習志野の人々は、アラバマの人たちと同じくらいあたたかいと思います(笑)。

●日本の生徒の印象はどうですか？

とても素晴らしいです！英語を学ぶことが大変好きようです。熱心ですね、目をキラキラさせて一生懸命に聞いてくれます。

●それはもしかして、きれいなアメリカ人の先生だからでは？

いや～、それはわかりません(笑)。でも、このあいだ、生徒の一人がナラシドくん(習志野のキャラクター)のイラストを描いて、私にくれました。(注：と言って、その絵を見せてくださいました)。とても丁寧に描かれているでしょう？心がこもっていて、嬉しいですね。

●早くも人気先生になられたご様子ですが、今後の抱負は？

英語は世界へとつながるドア。ドアを開けて世界とつながり、自分の世界をより広げられるように、生徒たちには英語の勉強を励まし、助けていきたいです。将来、たとえば大学に進学する時だけでなく、旅行に行った時などにも、英語は世界とつながっているんだなあ、役に立つなあ、と実感する時があるかもしれません。英語は世界への入口になる、ということ伝えていきたいです。

●プライベートでは、趣味はなんですか？

ジョギングです。あと、ファッションにも興味があります。このあいだ原宿に行きましたが、評判通り、みんなとてもキュートでした(笑)。

(インタビュー 佐藤洋子 広報青年部会)

